

「ひとが なんとかしてくれると 思うな」

新しい1年が始まりました。3年生は卒業を、1・2年生は進級めざしてがんばりましょう。

でも今はそんなことよりも、目の前のこと、新しいクラスでどうやって友だちを作るか・・・で頭がいっぱいかもしれません。毎日遅刻や欠席をしないで学校に来られるか・・・のほう心配の人もいるかもしれません。

今年通算100作目、若い人にも人気の広瀬すずさんが主演ということで話題になっている

NHK 朝の連続ドラマ小説の中の「あるセリフ」が、ネットで話題になっています。

それは草刈正夫さん演じる、北海道で土地を耕して酪農をしているおじいさんが、戦争で両親を亡くした、なつという、他人だけど一緒に暮らすことになった女の子に語った言葉でした。

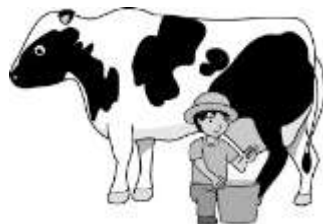


「ちゃんと働けば、必ずいつか報われる日がくる。報われなければ、働き方が悪いか、働かせる者が悪いんだ。とっとと逃げ出しゃいいんだ。」

だが、一番悪いのは、ひとがなんとかしてくれると 思って生きることじゃ。

ひとはひとを当てにする者を助けたりはせん。

逆に、自分の力を信じて働いていれば、きっと誰かが助けてくれるものだ」



これは決して、人を頼ってはいけないとか、助けてもらってはいけないということではなく、自分は努力しないで、だれかが何とかしてくれるだろう・・・という気持ちでは誰も助けてくれないし、うまくいかないということです。

たとえば勉強。

毎日の授業に出席し、参加し、決められた課題を出し、テスト勉強もちゃんとやれば、必ず結果はついてきます。もし結果がついてこないのなら、勉強のやり方が悪いか、教え方が悪い(?!)ので、逃げ出す前にとっとと、先生に教えてもらいに行きましょう。



ただ、一番悪いのは、ひとがなんとかしてくれる、自分は何もしないでもなんとかなると思っ

て生きることです。授業を聞いてもわからないといって、授業中に寝てしまったり、参加しなかったり、課題も出さない、テストの点数も取れない。でもだれかがなんとかしてくれるような気がして、そのままに

先生たちも、授業も参加しない、課題も出さない、テストの点数も取れない・・・では助けようがありません。

でも、勉強が苦手だけど一生懸命努力している。時間がかかっても課題をきちんと出す、放課後寺子屋にも出席する、わからないときは質問にくる・・・そんな生徒を、先生たちが助けないはずがありません。

たとえば友だち関係。

自分は人見知りだからといって、自分からは話しかけないのに、何もしなくても友だちが集まってきてくれるはず・・・と思っている人はいませんか？

自分からは話しかけるのはいやだから、向こうから話しかけてきてくれればいいのに！

と思っている人はいませんか？

このクラスには自分が仲良くなりたい人はいないから、友だちはつけれない！と決めつけている人はいませんか？

一番悪いのは、ひとがなんとかしてくれると 思って生きることです。



まずは自分から「おはよう」とあいさつをしてみませんか？ わからないときには「これって、どうしたらいいのかな？」と聞いてみませんか？ 「お昼、一緒に食べていい？」と声をかけてみませんか？ そんな小さなひとことから、友だちづくりは始まるのです。

でももし、自分とは合わない、いやなことを言われた、一緒にいても疲れる・・・と思ったら、そのときこそ、とっとと逃げだしゃいいのです。無理をすることはありません。

がんばって見たけどうまくいかなかった・・・これからどうしたらいいかわからない。または意地悪をされた、無視された、いじめられた・・・そういうときには先生たちに助けを求めてください。

最初に話した「なつぞら」のセリフには続きがあります。

「お前はこの数日、ほんとによく働いた。お前なら大丈夫だ。だからもう、無理に笑うことはない。お前は堂々とここで生きろ。」



残念ながらこの1年間、楽しいことやうまくいくことばかりではないかもしれません。がんばったのにうまくいかないこともあるかもしれません。特に友だち関係は一度こじれると、仲直りが難しいことが多いようです。でもそんなときは、無理に笑うことはありません。つらいときはつらいと、SOSを出しましょう。

無理に笑うことも、元気にふるまうこともありません。時には泣いたり怒ったりすることも大切です。

だれがなんといおうと、この橋高に入学した以上は、この学校はあなたの居場所です。

堂々とここで生きてほしいのです。

勉強が苦手だ

人間関係が苦手だ

そう思っている人も多いと思います。でもひとは変われます。

そして結果がでたとき、そのひとつひとつがあなたの自信となり、力になります。

困ったとき、どうしていいかわからないとき、なんだか体調が悪いとき、泣きたいとき、怒っているとき、保健室に来てみませんか？

最終的に決めるのも解決するのもあなた自身ですが、どうしたらいいかを一緒に考えてみましょう。



いっしょに考えようね

ちょっと心配なこと、つらいこと、何かあったらひとりではやまなくて、話してみようね。